

(刈谷市) 富士松中学校地域学校協働本部

市町村の 基本情報	学校数	小学校15校、中学校6校、特別支援学校1校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	1人	
		地域学校協働活動推進員	48人	
	状況	統括コーディネーター	1人	
		地域コーディネーター	19人	
	CS及び地域学校協働本部設置状況	CSを導入している学校数	小15校	中6校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小15校	中6校	



カキツバタ群落除草作業

(活動の実際)

刈谷市では、令和4年度より市内全22の学校（15小学校・6中学校・1特別支援学校）に学校運営協議会を設置するとともに、段階的に推進員を配置して地域学校協働活動をスタートさせた。令和6年度には全小中学校に推進員の配置が完了した。小学校への学校支援、中学生の地域貢献を軸としつつ、特別支援学校は近隣の小中学校との交流活動を大切にしている。年間3回の市全体の推進員会議で各校の取組状況を紹介しながら情報交換を行っている。そのうち1回は各校の教頭も参加している。

＜具体的取組＞

- 天然記念物カキツバタ群落除草作業（井ヶ谷）
- コスモスファームへのヒマワリ苗植え（西境）
- 子ども神輿（東境）
- 市民館花壇整備（東境）
- 防災フェスタ（一里山）

これら地域独自の行事等を始め、「ごみゼロ活動」「敬老会」「盆踊り・夏祭り」「秋祭り」「運動会」「地区防災」など、複数の地区からの依頼を受け、全校生徒数565名の本校で、11月末現在、のべ350名を超える生徒が地域ボランティアに参加している。

(◎成果と●課題)

- ◎5月の全校集会で、各地区の推進員（コーディネーター）と全校生徒が対面し、コーディネーター代表による地域の思いと生徒代表の思いを伝え合うなどして、お互いが本活動に対する理解を深めることができた。
- ◎地域ボランティアの内容について、コーディネーターが学校に出向いて事前の説明会を実施することにより、生徒が安心して当日を迎えられるとともに、コーディネーターと生徒の距離がぐっと縮まった。
- ◎生徒の地域ボランティアの対応を推進員が中心となって行うことにより、学校の負担が大幅に軽減した。
- ◎生徒が地域で活躍する機会が増え、生徒たちの自己肯定感・自己有用感が増した。
- 6地区それぞれから地域行事へのボランティア依頼が来るが、学校行事等を考慮して全体を調整するのは教頭が行わざるを得ない。今後、全体を統括して調整をする立場の人材確保が望まれる。

(関係者の声)

- ・お祭りの神輿かつぎは小学生以下の子供たちで行っていたが、子ども会離れの問題があり人数確保が難しかった。中学生ボランティアを募り、一緒にかついでもらったことにより大いに盛り上がった。また、中学生が小学生の世話をしてくれたことにより、小中学生の交流もできた。（東境地区コーディネーター）
- ・地域防災に単発のボランティアで来てもらうだけでなく、事前に、中学生が地域住民とともに防災について学ぶ防災学習会を何回か実施し、当日は「防災フェスタ」の運営スタッフとして活躍してもらった。何度か顔を合わせる中で、地区役員と中学生の交流が深まった。（一里山地区コーディネーター）
- ・防災フェスタに参加して、ふだん学校では学べないことを知ることができた。地域のいろいろな人とかわることができて楽しかった。（一里山防災フェスタに参加した生徒）